

学校だより



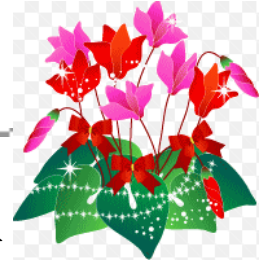
# 平沼

横浜市立平沼小学校

平成30年11月30日

Mail ; y3hiranu@edu.city.yokohama.jp

URL ; <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/hiranuma/>



## 待つこと、信頼すること

校長 長谷川 絹子

花屋の店先では、シクラメンやシャコバサボテン（デンマークカクタス）、ポインセチアなどの花がにぎやかに彩っています。ポインセチアは、クリスマスのイメージがありましたが、近年では秋の終わりごろになると、赤、ピンク、白など、様々な種類が見られるようになり、冬を彩る植物となってきました。校長室には、真っ赤なシクラメンを一鉢飾りました。

学校では、朝会や集会などに集まって来た子どもたちのおしゃべりが聞かれることがあります。進行役の教員は何も言わずに静かに待ちます。次第に気が付く子どもたちが増え、徐々に静かになっていきます。多少時間はかかります。おしゃべりをしている子どもたちに大きな声で「お話をやめましょう！」と言うのは簡単かもしれませんが、たくさんの方が集まった場所では静かにすることがルールであることに自分で気付き、行動できることを大切にします。また、授業の中で教師の発問に対して、すぐに答えや考えが返ってこないことがあると、教師は不安になることもあります。じっくり待ち、子どもたちが自分なりの考えを生み出そうと一生懸命に頭を働かせていることを大切にします。（教師の発問が、難しいこともあります…）

ご家庭では、どんなとき、どんなことを待っていますか。朝、家を出なければならない時間なのにのんびりテレビを見ている、約束をした時間に帰ってこない、何度も注意をしていることの改善、自主的な行動、やる気スイッチ…子どもを育てるということは、「待つ」ことの積み重ねのように思えます。そして、なかなか結果が出せない子どもを「待つ」のには、辛抱が要ります。つい先の「結果」にばかり目が奪われてしまうからです。焦ってしまいがちですが、子どもたちはそう大人の都合よく育ってはいけません。その子の成長のタイミングがあり、早ければよいものでもないでしょう。なかなか一歩を踏み出してくれないときは、今は結果を出すタイミングではないと子どもを信頼し、じっくり「待つ」ことに楽しみを見いだすゆとりをもちたいものです。子どもの自主性や自立心は「待つ」ことによって育つと思っています。

しかし、「待つ」ということは、何もしないで見守るということでもありません。その子らしさを受け止めつつも、何かの仕掛けが必要です。畑を耕し、肥えた土作りに努め、天候に左右されながらも種の発芽を待つ心境です。教師が子どもたちを見ながら何も話さずに静かにする、静かになったときにはほめる。子どもの考えを引き出すために、有効な資料を用意し提示する、前時の学習の掘り起こしをしておく、必要な基礎知識を身に付けさせておくなどの手立ては必要です。ご家庭でも、目標や約束ごとを掲示する、頑張りを認める、一緒にやってみる、時には相談できる人に相談してみる…そんな姿から親の思いを感じとり、子どもの心は整っていくのではないのでしょうか。

いよいよ今年も残すところ1か月となりましたが、4年生の上郷宿泊体験学習、6年生の岡野中学校で行われる「街の教育座談会」への参加、平沼共育ネットワークによる平沼フェスティバル等々、学校はまだまだ盛り上がっていきます。子どもの自主性を大切にしながら見守り支援していきたいと思えます。

2018年、本校の教育活動へのご理解とご協力をいただき、ありがとうございました。

2019年もよい年でありますように、心よりお祈りいたします。